



「第11回全国和牛能力共進会」
で鹿児島県が団体賞を受賞

01 農林水産業

平成 29 年
(2017 年)

「第11回全国和牛能力共進会」が開催され、鹿児島県が悲願の団体賞を受賞しました。市内からは県内最多の7頭が出品され、和牛日本一に大きく貢献しました。

農業用水に使われるダムの建設や施設整備、6次産業化の推進等による販路の拡大など、鹿屋市の基幹産業である農業は平成の時代で大きく発展しました。また、畜産業の振興や悪臭対策などを目的とした施設が整備されたほか、和牛日本一に貢献するなど、畜産王国として全国レベルの活躍が時代を通して随所に見られました。水産業においては、鹿屋市漁業協同組合の「みなと食堂」や「みなと市場」が新たに整備されたほか、特産品であるカンパチのファン拡大に向けた活動を関係機関と一体となって行うなど、市内外に鹿屋市の水産物の魅力をPRしました。



「鹿児島きもつき農業協同組合」開業

平成5年
農業の国際化、農家の高齢化に対応して、経営基盤の体質強化を図るため、鹿屋市・垂水市・肝属郡の広域農協合併が行われ、「鹿児島きもつき農業協同組合」が開業しました。



「吾平町畜産指導センター」完成

平成4年
約150頭の牛けい留舎のほか、事務所、倉庫堆肥舎、比較審査場などが備わった「吾平町畜産指導センター」が完成しました。

第5回おおすみ木材まつり

平成15年

木の良さや森林の大切さなどを知ってもらおうと「第5回おおすみ木材まつり」が開催され、来場者は丸太切り競争や木工教室、模擬上棟式などのイベントを楽しみました。



「輝北キラキラ館」オープン

平成22年

地元で採れた新鮮な野菜や花、加工品などを販売する「輝北キラキラ館」が輝北町上百引にオープンしました。

宮崎県で口蹄疫が発生

平成22年

平成12年に続き、宮崎県で口蹄疫が発生しました。市内への侵入を阻止することはできたものの、農業関係者のみならず、景気や経済など様々な分野に影響がおよび、多くの傷跡を残しました。



「大隅加工技術研究センター」開設

平成27年

野菜の加工・流通技術の研究や新商品の試作等を支援する拠点施設である「大隅加工技術研究センター」が開設されました。



年表で見る 農林水産業

- 平成二年
 - 4 「養鰻組合新工場」完成(串良町)
 - 11 全国ホルスタイン共進会で重久和雄さんが一等賞を受賞(輝北町)
- 平成四年
 - 4 「吾平町畜産指導センター」・「吾平町農業管理センター」完成
- 平成五年
 - 3 広域農協合併(鹿屋市、垂水市、肝属郡)「鹿児島きもつき農業協同組合」開業
- 3 広域農協合併(有明町を除く曾於郡7町)「おお鹿児島農業協同組合」開業
- 4 「鳴之尾牧場展望所」開設
- 平成七年
 - 7 「きもつき森林組合」発足
- 平成十年
 - 9 「財団法人輝北町農業公社」設立
- 平成十一年
 - 6 林道「ツイデ平線」開通(輝北町)
 - 12 特用林産加工施設を建設(輝北町)



第20回鹿屋市農業まつり

「第20回鹿屋市農業まつり」が開催され、新鮮な野菜や果物、牛乳やお茶などの農産物の加工品などが販売されたほか、子豚のレースなど楽しい催し物も実施されました。



養鰻組合新工場完成

白焼き・かば焼きがライン化され、最新式の急速冷凍機や全自動真空包装機、殺菌装置などを導入した、大隅地区養鰻漁業協同組合の新加工場が串良町下小原に完成しました。

Interview

「有限会社 南橋商事」代表取締役

矢羽田 竜作 さん

やはた りゅうさく



さつまいもの品質向上に取り組んだのは、10年前の「べにはるか」との出会いがきっかけでした。主に加工用のさつまいもを作っていましたが、まだ命名される前の「べにはるか」を試しに作って食べてみると、そのおいしさに驚きました。今までに食べたことのない甘さを感じ、この品種の栽培を決意しました。

最初は品質が悪いものしか作れず苦労しました。原因は、それまで栽培していた加工用さつまいもの畑と「べにはるか」が合わなかったことです。そのため、まずは土づくりから始めました。試行錯誤の日々が続く中で、毎日新たな気づきがあります。その気づきを大切にしながら、基本的なことから見直していきました。

貯蔵庫の建設も大きな出来事の一つでした。多額の費用がかかりましたが、芋を1年間出荷し続けるという目標のためにとっても重要な要素だったと思います。「きつい仕事をするなら、儲けないといけない」という思いを以前から持っています。そのこともあり、今は休日返上で仕事をすることもあります。家族のためにも、従業員のためにも、休むことができる環境づくりを行っていきたいです。

今後も他の人が取り組んでいないような新たな試みに挑戦していきたいと思っています。



「財団法人輝北町農業公社」設立

農家の高齢化や担い手不足等が進行し、活力が失われつつある地域農業を支援するため、「財団法人輝北町農業公社」が設立されました。

平成10年 (1998年)



農産物直売施設 「みどりの停車場」オープン

平成13年
(2001年)

生鮮野菜等の農林産物や農産加工品、手作り工芸品、オレンジパーク串良のみかんなどを直売する「みどりの停車場」が串良町下小原にオープンしました。



Interview

「株式会社 牛の上別府」代表取締役

上別府 美由紀 さん

かみべつぶ みゆき



畜産を始めたきっかけは祖父の「今から牛の時代がくる」という熱意ある説得でした。そこまで言うならやってみようと思いついた1週間後、祖父は亡くなりました。もしかしたら祖父は私が牛を始めることに安心して逝ったのかもしれませんが。

祖父との約束通り、短大卒業後、平成14年に畜産を始めました。しかし、牛のつなぎ方から何から基本が分からない全くの素人。先輩の仕事を見たり、市場に通いベテランの方から指導を受けたりして、牛の育て方や品種など牛に関する知識と経験を蓄えていきました。

平成22年には口蹄疫に見舞われ一時期大変でしたが、起業して18年が経ち、何とかここまでやってこれました。当時は珍しかった女性農家も近年では多くなり、現在は就農のため県外からの移住者も増えてきたと感じています。畜産をやりたいけど環境が整わないという人が全国的に多い中、鹿屋は畜産に最適な場所です。昔は臭い・汚いと言われていましたが時代は変わり、ICTなどの最新技術を取り入れることで働きやすさも格段に良くなりました。

これからは女性も輝ける職場づくりに努め、畜産は楽しいということをアピールして畜産人口を増やしていきたいと思います。

- 平成十二年
 - 5 宮崎県で口蹄疫が発生(エアーメモリアルinかのや・フラワーフェスタなどの各種イベントが中止に)
 - 7 「財団法人輝北町農業公社」研修事業開始
 - 12 「第一鹿屋青果地方卸売市場」竣工
- 平成十三年
 - 3 農産物直売施設「みどりの停車場」オープン(串良町)
- 3 新規就農研修施設設置(研修用温室、作業棟、研修用宿泊滞在施設)(輝北町)
- 4 「鹿屋市畜産環境センター」完成
- 9 「輝北ダム」堤体完成
- 平成十五年
 - 11 「輝北町養豚糞尿処理センター」本稼働
- 平成十六年
 - 11 九州ふるさとの森づくり事業植樹祭(輝北町)
- 平成十七年
 - 3 「輝北ダム」試験湛水開始
- 10 鹿児島県畜産共進会で鹿屋農業高校が九州農政局長賞を受賞
- 11 「輝北ダム」完成
- 平成十九年
 - 2 新「鹿屋市茶業振興会」設立総会



平成17年
(2005年)

県畜産共進会で 鹿屋農業高校が 九州農政局長賞を受賞



曾於市の中央家畜市場で開催された「第54回鹿児島県畜産共進会」で鹿屋農業高校の肉用牛が第1席となり、さらに九州農政局長賞を受賞しました。

平成二十年

11 鹿屋市漁協直営販売所兼食堂「みなと食堂」オープン

11 「平成20年度鹿児島県茶業振興大会 inかのやお茶まつり」

平成二十二年

3 鹿屋市漁協直販施設「みなと市場」オープン

4 宮崎県で口蹄疫が発生

平成二十三年

7 「大隅森林組合」発足

平成二十四年

8 鹿屋農業高校が「うまちか! 甲子園」に出場

9 「かのや紅はるか」誕生

平成二十六年

11 「第6回九州連合ホルスタイン共進会」で木原貴久さんの乳牛が名誉賞を受賞

平成二十七年

4 「大隅加工技術研究センター」オープン

10 「第14回全国ホルスタイン共進会」で市内の乳牛が優等賞を受賞

平成二十八年

2 「Show・1グルメグランプリ」で「カンパチdeリゾート」が優勝



市内で20年ぶりに「平成20年度鹿児島県茶業振興大会 inかのやお茶まつり」が開催され、茶業功労者表彰と県茶品評会の表彰が行われました。



カンパチ料理やその日水揚げされた新鮮な鮮魚類を使った料理を提供する「みなと食堂」が鹿屋市漁業協同組合の隣にオープンしました。

Interview

大隅森林組合 代表理事組合長

下清水 久男 さん
したしみず ひさお



平成20年に鹿屋市役所を退職した後、きもつき森林組合の理事として組合業務に携わったのが本格的な林業との出会いです。平成時代の一番の思い出は平成23年に、きもつき・垂水市・南大隅の森林組合の広域合併に取り組んだことです。関係組合の皆さんと合併という一つの目標に向かって、組合員のご理解とご協力をいただきながら大隅森林組合として新たな組織でスタートすることができました。

山は国土保全、災害防止、地球温暖化対策、水源かん養等重要な役割を担っており、山を守っていくことは、ひいては尊い命を守ることにつながるため、山を大事にする取り組みを進めていくことが重要です。

現在の山は戦後に植栽して50年経ったことで利用期を迎えていることから、森林資源の循環型利用に責任をもって取り組む必要があると感じています。地元の子も木たちに木の良さやありがたさを伝えていく木育の取り組みも継続していきたいです。

令和に向けては森林環境税等の導入による森林の整備保全に関係機関一体となって、より一層取り組んでいかなければならないと感じます。また「大隅は一つ」を合言葉にこれからも尽力していきたいです。



「かのや肉焼き祭り」初開催

地元産の牛や豚の焼肉を手ぶらで気軽に自然の中で楽しめる「かのや肉焼きまつり」が初開催されました。



第40回くしら黒土まつり

「第40回くしら黒土まつり」が開催され、農畜林産物の直売や卵のつかみ取り、名物イベントの農産物獲得クイズなどが行われ、約16,000人の来場者でにぎわいました。



ショウ デ
「Show-1 グルメグランプリ」で「カンパチ de リゾット」が優勝
 「商店街グルメ No.1 決定戦 Show-1 グルメグランプリ」が開催され、鹿屋市商店街連合会が出品した「カンパチ de リゾット」がグランプリに輝きました。



荒瀬ダムが通水開始

国の畑かん事業として平成9年に着工され、鹿屋市南部と肝付町に農業用水を供給する荒瀬ダムの通水式が行われました。

- 11 県畜産共進会で市出品牛が「農林水産大臣賞」を受賞
- 9 県ホルスタイン共進会で県酪農協同組合大隅支所が8年連続団体優勝
- 9 「第42回九州管内系統和牛枝肉共励会」で新地正清さんの枝肉が「農林水産大臣賞」を受賞
- 8 鹿屋市漁業協同組合青年部が「内閣総理大臣賞」を受賞
- 7 荒瀬ダム通水式
- 6 鹿屋市農業高校が「第1回和牛甲子園」肉質部門で最優秀賞を受賞
- 5 鹿屋市漁業協同組合が巨大カンパチ「アカバラ」を販売開始
- 4 「第11回全国和牛能力共進会」で鹿児島県が団体賞・薬師成人さんが1席を獲得
- 3 「第22回全国青年・女性漁業者交流大会」で鹿屋市漁業協同組合青年部が「農林水産大臣賞」を受賞



鹿屋市漁業協同組合青年部が「内閣総理大臣賞」を受賞

「かのやカンパチファン拡大活動」が評価され、鹿屋市漁業協同組合青年部が「第11回海洋立国推進功労者表彰（内閣総理大臣賞）」を受賞しました。

Interview

「有限会社 芳恵丸」代表取締役社長
鵜瀬 芳昭 さん
 うのせ よしあき

高校卒業後、養殖業に就いたばかりの頃はハマチを養殖していましたが、消費者から大きい魚が好まれるようになりブリに転換。平成の初め頃から「ブリよりおいしい」と感じたカンパチの養殖を始めました。

当初は、魚を1匹丸々注文されることが多かったのですが、エサを与えて魚を大きく成長させるのが仕事でしたが、家庭で魚を捌くことが少なくなったのか、フィーレやロインなど細かく注文されるようになり、今では出荷をするために魚を切り分ける作業が当たり前になりました。

消費者に届ける方法も以前は、市場に卸すのが主流でしたが、時代の流れとともに様々な販路拡大に取り組みました。市内外のイベントで営業活動を行ったり、イベントの一環で自宅に参加者を招き、カンパチ料理を振る舞ったこともありました。

平成12年からは加工品にも取り組み、カンパチを燻した「カンパチ薫ブロック」や、カンパチのふりかけを開発しました。観光客にお土産として買ってもらうことで、「鹿屋はカンパチの産地」ということをもっと多くの人に知ってほしいです。「よりおいしい魚を作る」という気持ちを常に持ち続け、これからも頑張ります。また、若い世代に養殖業の魅力をしつかりと伝えて、後継者育成にも努めていきたいと思っています。



JA 肝付吾平町ピーマン部会 新規就農者はさみ入れ式

平成22年に始まった市の研修制度を活用し、5期生として新規就農した5人のピーマン農家が初出荷を迎えたことから、はさみ入れ式が行われました。